

# ひかりのこ

7月園便り

聖ミエル幼稚園

2017年6月20日

## 月主題：気持ちよく

### 『ファンタジーの世界へ』

このところお天気の日が多く、運動会の練習も順調です。日に日に上手になっていくお遊戯、かけっこやリレーの練習、各クラスの綱引きの秘密の特訓、子どもたちも、私たち職員も、なんとなくワクワクしながら毎日を過ごしています。あとは、本番がどうぞお天気でありますように、お天気でなくて曇り空でも、せめて雨が落ちてきませんように、と祈るばかりです。

さて、先生たちは運動会の準備だけでも忙しいでしょうに、各クラスで食育や絵本にまつわる面白い仕掛けをたくさん作っています。

らいおん組さんは、『私のワンピース』の絵本をモチーフにして、壁に貼ったうさちゃんのワンピースの絵柄がいろいろ変わるのを楽しんでいます。子どもたちが考えた模様は「おさるさんとバナナ」だったはずなのに、花の日礼拝が終わって保育室に戻ってくると、なんと「お花」の模様が変わっていてびっくり。それにこの前、うさちゃんから「えほんのくに しょうたいけん」が届きました。うさちゃんが、らいおん組さんや、先生を「えほんのくに（絵本図書館）」に招待してくれたのです。

ぱんだ組さんのお部屋には、折り紙の大根の苗が飾ってあり、なんとその苗は毎日どんどん伸びるのです。毎日伸びて、すっかり大きくなったら、運動会の綱引きの練習を兼ねて「うんとこしょ、どっこいしょ。」と収穫です。腰の曲がった給食のおばさんに大根を渡すと、次の日の給食のスープにはおいしそうな大根が。自分で収穫した大根なので、ぱんだ組さんのスープの食缶は、おかわりで空っぽになりました。

きりん組さんは、ぱんだ組さんとともに、『わんぱくダンシ리즈』の世界を楽しんでいます。きりんさん、ぱんださんには、「わんぱくだん」の「けん・ひろし・くみ」から、「こまどり公園に、いちばんぼしごうがあるから来てね。」とお手紙が届きました。園外保育でリュックをしょって、こまどり公園に行くと、なんと、SLの遊具に「いちばんぼしごう」と名前がついている

はありませんか！みんなは大喜びで空飛ぶ「いちばんぼしごう」に乗って楽しみました。おまけに「くみ」が、夢ではない証拠に、お空から雲を持って帰ったように、子どもたちも、メレンゲの「うやけぐものおかし」をいただきました。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「なぜ」と問うこと

こどもたちと話していると、「どうして？」とか「なんで？」と何度も言われて困ることがあります。でも、これはとても大切なことらしいのです。

思想家の内田樹さんによると、1990年代位からこどもたちの知性に対する態度が劇的に変わったとのこと。要するにこどもたちが学ばなくなったということです。統計上、学校以外で勉強する時間は先進国37ヶ国中、日本はビリから3番目くらいと言われます。学力の低下とは、たとえば、本や雑誌で知らない言葉や意味不明の表現があった時、前後の脈絡から推察したり、人に意味を聞こうとします。そうしないと自分の中に無知という空白が生じ、これに不快を感じたり、違和感を持つからです。ところが最近では、不快になったり違和感が生じない子が多いといえます。知らない、分からないということが苦にならない。意味不明の言葉はその言葉の意味する実体が初めからこの世に無かったものとしてしまう。すると、その子にとってこの世界とは、分からないことだらけ、空白だらけの穴ぼこチーズのようなものですが、それで何も困らないということです。

これはその子の個性では済まされず、社会との関わりに反映されるようになります。世の中で何が起っても関心が持てず、自分との関係が見い出せなければ、本人にとっても社会にとっても危機的な状況なのです。

「なぜ」と問うことは人間にとって最低限の知性の始まりであり、生きる力として必要なのだと、改めて気づかされます。こどもたちの「どうして？」を、もっと聞きたいと思いました。

チャプレン 司祭 下澤 昌